

野村ジャパンドリーム (野村SMA・EW向け)

運用報告書(全体版)

第1期(決算日2015年12月7日)

作成対象期間(2015年3月12日～2015年12月7日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/国内/株式	
信託期間	2015年3月12日以降、無期限とします。	
運用方針	野村ジャパンドリーム マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)受益証券への投資を通じて、主としてわが国の株式に実質的に投資し、信託財産の成長を目標として、積極的な運用を行います。	
主な投資対象	野村ジャパンドリーム (野村SMA・EW向け) マザーファンド	マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資する場合があります。 わが国の株式を主要投資対象とします。
主な投資制限	野村ジャパンドリーム (野村SMA・EW向け) マザーファンド	株式への実質投資割合には制限を設けません。 株式への投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等から、基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。	

野村アセットマネジメント

東京都中央区日本橋1-12-1



サポートダイヤル 0120-753104

(受付時間) 営業日の午前9時～午後5時

ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額			参考指数		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
	(分配落)	税金分配金	期中騰落率	ジャスダック指数	期中騰落率			
(設定日)	円	円	%		%	%	%	百万円
2015年3月12日	10,000	—	—	108.50	—	—	—	800
1期(2015年12月7日)	12,465	5	24.7	117.90	8.7	96.9	—	1,336

*基準価額の騰落率は分配金込み。

*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

*株式先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		参考指数		株式組入比率	株式先物比率
	騰落率	騰落率	ジャスダック指数	騰落率		
(設定日)	円	%		%	%	%
2015年3月12日	10,000	—	108.50	—	—	—
3月末	10,295	3.0	111.26	2.5	96.5	—
4月末	10,447	4.5	113.41	4.5	95.9	—
5月末	10,766	7.7	116.32	7.2	95.8	—
6月末	11,463	14.6	118.35	9.1	96.0	—
7月末	11,962	19.6	120.28	10.9	95.3	—
8月末	11,522	15.2	111.48	2.7	95.9	—
9月末	11,184	11.8	106.52	△ 1.8	96.3	—
10月末	11,795	18.0	110.93	2.2	95.6	—
11月末	12,349	23.5	116.04	6.9	95.8	—
(期末)						
2015年12月7日	12,470	24.7	117.90	8.7	96.9	—

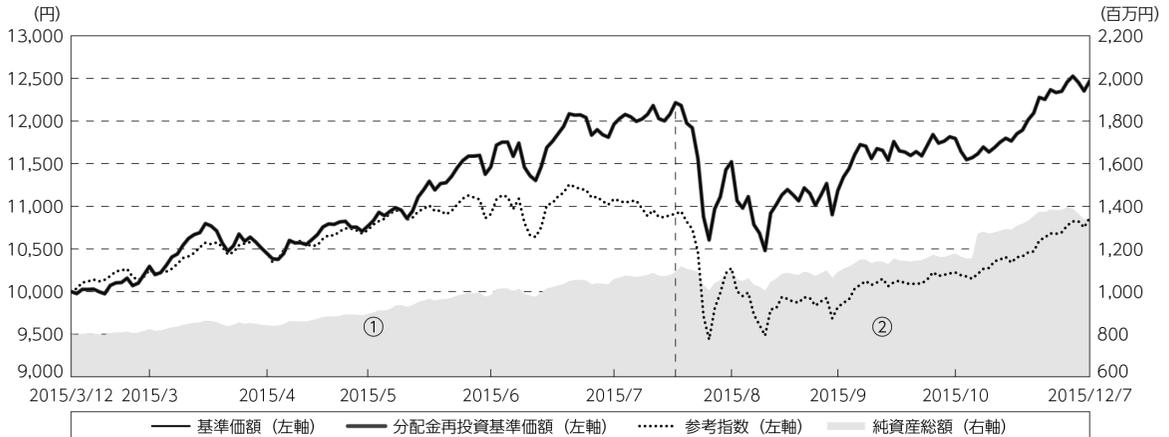
*期末基準価額は分配金込み、騰落率は設定日比です。

*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

*株式先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

◎運用経過

○期中の基準価額等の推移



設定日：10,000円

期 末：12,465円 (既払分配金(税込み)：5円)

騰落率： 24.7% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 参考指数は、ジャスダック指数です。参考指数は、設定時を10,000として計算しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

* 基準価額は24.7%の上昇

基準価額は、設定時10,000円から期末12,470円(分配金込み)に2,470円の値上がりとなりました。

①の局面(設定時～'15年8月中旬)

- (上昇) 国内において所得環境の改善による内需の回復期待が高まったこと
- (上昇) 日本企業の2014年度決算が堅調であったことや、コーポレートガバナンス(企業統治)強化に対する期待が高まったこと

②の局面(8月中旬～期末)

- (下落) 中国経済や中国の株価下落に対する懸念により投資家のリスク回避姿勢が強まったこと
- (上昇) 米国が利上げを先送りするなど世界的に金融緩和が継続したこと

○投資環境

- (1) 世界経済は中国の経済成長への懸念がありますが、主要先進国を中心に緩やかな成長が続いています。米国は雇用回復による内需主導の景気拡大、欧州は金融緩和などを背景に緩やかな回復が継続しています。
- (2) 日本経済についても、緩やかに拡大が続いています。中国を含めたアジア経済減速の影響などにより、一時的に実質GDP（国内総生産）成長率は前年比マイナスとなりましたが、今後は所得環境の改善により消費が堅調に推移することに加え、人手不足による省力化投資などにより企業の設備投資も徐々に上向くとみられます。
- (3) 今後も世界経済の緩やかな回復を背景に、日本の株式市場も堅調な推移が期待できますが、米国の利上げや新興国の景気減速などで景気に対する不透明感が強まる中では、競争力によって企業業績の格差が広がるとみられます。独自の成長要因をもち、中期的な成長確度の高い企業を選別することがより一層重要になると考えています。

○当ファンドのポートフォリオ

〔野村ジャパンドリーム（野村SMA・EW向け）〕

主要投資対象である〔野村ジャパンドリーム マザーファンド〕を期を通じて高位に組み入れ、期末の実質株式組入比率は96.9%としました。

〔野村ジャパンドリーム マザーファンド〕

・株式組入比率

原則として高位を保つことを基本としており、期を通じて概ね90%以上を維持し、期末は96.0%としました。

・期中の主な動き

当期は高齢化社会の進展や自動車の電装化などによる中長期的な需要増を取り込める企業や、国内の業界再編により収益環境の改善が期待できる企業などに注目しました。

環境や安全への取り組み強化などによる自動車の電装化に伴い、コネクタの売上増が見込まれる電気機器株、FX（外国為替証拠金取引）で高いシェアを有している証券、商品先物取引業株などを買い付けました。

一方、情報・通信業で株価上昇により割安感が薄れた銘柄や、成長分野として期待していた新規事業の収益化が遅れている銘柄などを売却しました。

<比率を引き上げた主な銘柄>

①イリソ電子工業（期末2.6%、純資産比、以下同じ）

環境や安全への取り組み強化などによる自動車の電装化に伴い、主力製品であるコネクタの売上拡大が見込まれるため。

②GMOクリックホールディングス（2.5%）

FXで高いシェアを有しており、取引顧客数の増加に伴い業績拡大が期待できるため。

<比率を引き下げた主な銘柄>

①ラック（0.6%）

好調な業績推移を背景に株価が上昇し、割安感が薄れたため。

②ポルトウウィン・ピットクルーホールディングス（0.0%）

成長分野として期待していたネット看視事業は、他社との競争などにより伸び悩みが懸念されるため。

○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

* 参考指数との対比では16.0ポイントのプラス

今期の基準価額の騰落率は24.7%の上昇となり、参考指数であるジャスダック指数の8.7%を16.0ポイント上回りました。

【主な差異要因】

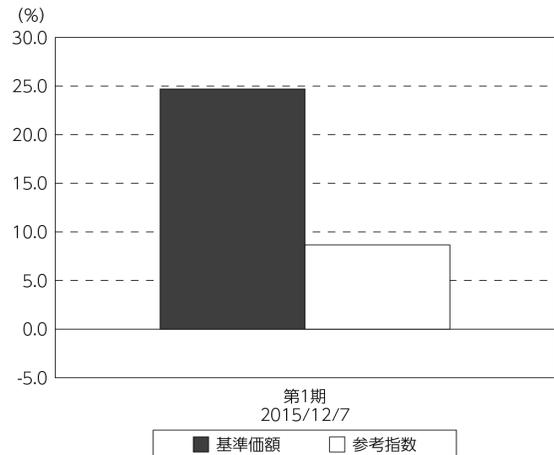
プラス寄与した主な投資銘柄

- ・ ジャスダック銘柄では、豊富な運用実績を活かしてスマートフォン向け広告売上が大幅に伸びているセプテーニ・ホールディングスや、情報セキュリティ関連の受注拡大が期待できるラックなど。
- ・ ジャスダック以外の銘柄では、リストラ効果とEコマースの好調で業績が急回復したアダストリアや、外資系の大手製薬会社との提携により業績の拡大期待が高まったそーせいグループなど。

マイナス寄与した主な投資銘柄

- ・ ジャスダック銘柄では、パート・アルバイトの残業代など人件費を中心にコストが想定以上に増加したフジオフードシステム、生産拠点を拡充の投資負担が重く、業績が低迷しているエイチワンなど。
- ・ ジャスダック以外の銘柄では、新規事業への積極的な投資により一時的に業績が伸び悩む可能性があるサイバーエージェント、スマートフォン向けゲーム市場の競争激化が懸念されるコロプラなど。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) 参考指数は、ジャスダック指数です。

◎分配金

- (1) 基準価額の水準等を勘案し、今期の収益分配は今期の配当等収益や分配準備積立金の一部から1万口当たり5円といたしました。
- (2) 留保益については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項 目	第1期
	2015年3月12日～ 2015年12月7日
当期分配金	5
(対基準価額比率)	0.040%
当期の収益	5
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,464

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

◎今後の運用方針

[野村ジャパンドリーム マザーファンド]

- (1) 成長期の銘柄では、複数の収益源を有しており中期的な成長確度が高い企業、ニッチ(隙間)な成長市場で主要プレイヤーになる可能性がある企業などに注目しています。
- (2) 主力事業の収益安定性や積極的な株主還元姿勢などにも着目して投資をしていく考えです。

[野村ジャパンドリーム (野村SMA・EW向け)]

当ファンドは引き続き第2期の運用に入ります。

前述の投資環境認識と投資方針のもと、主要投資対象である[野村ジャパンドリーム マザーファンド]の組み入れを高位に維持してまいります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○1万口当たりの費用明細

(2015年3月12日～2015年12月7日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 78	% 0.688	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(69)	(0.608)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
（ 販 売 会 社 ）	(5)	(0.040)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
（ 受 託 会 社 ）	(5)	(0.040)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売 買 委 託 手 数 料	16	0.140	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	(16)	(0.140)	
(c) そ の 他 費 用	0	0.002	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	94	0.830	
期中の平均基準価額は、11,309円です。			

* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

* 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

* 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

* 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2015年3月12日～2015年12月7日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
野村ジャパンドリーム マザーファンド	千口 1,121,879	千円 1,173,500	千口 47,633	千円 58,600

* 単位未満は切り捨て。

○株式売買比率

(2015年3月12日～2015年12月7日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	野村ジャパンドリーム マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	1,729,154千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	996,312千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.73	

* (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2015年3月12日～2015年12月7日)

利害関係人との取引状況

<野村ジャパンドリーム（野村SMA・EW向け）>
該当事項はございません。

<野村ジャパンドリーム マザーファンド>

区 分	買付額等 A			うち利害関係人 との取引状況B	売付額等 C		
	百万円	百万円	%		百万円	百万円	%
株式	1,399	153	10.9	329	—	—	

平均保有割合 100.0%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該子ファンドのマザーファンド所有口数の割合。

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	1,452千円
うち利害関係人への支払額 (B)	133千円
(B) / (A)	9.2%

* 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは野村証券株式会社です。

○自社による当ファンドの設定、解約状況

(2015年3月12日～2015年12月7日)

設定時残高 (元 本)	当期設定 元 本	当期解約 元 本	期末残高 (元 本)	取引の理由
百万円 800	百万円 -	百万円 60	百万円 740	当初設定時における取得とその処分

○組入資産の明細

(2015年12月7日現在)

親投資信託残高

銘	柄	当 期 末	
		口 数	評 価 額
野村ジャパンドリーム マザーファンド		千口 1,074,246	千円 1,349,361

*口数・評価額の単位未満は切り捨て。

親投資信託における組入資産の明細につきましては、後述の親投資信託の「運用報告書」をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2015年12月7日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
野村ジャパンドリーム マザーファンド	千円 1,349,361	% 97.1
コール・ローン等、その他	39,682	2.9
投資信託財産総額	1,389,043	100.0

*金額の単位未満は切り捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2015年12月7日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,389,043,580
コール・ローン等	9,782,486
野村ジャパンドリーム マザーファンド(評価額)	1,349,361,076
未収入金	29,900,000
未収利息	18
(B) 負債	52,270,404
未払収益分配金	536,217
未払解約金	44,664,000
未払信託報酬	7,045,693
その他未払費用	24,494
(C) 純資産総額(A-B)	1,336,773,176
元本	1,072,435,829
次期繰越損益金	264,337,347
(D) 受益権総口数	1,072,435,829口
1万口当たり基準価額(C/D)	12,465円

(注) 期首元本額800百万円、期中追加設定元本額333百万円、期中一部解約元本額60百万円、計算口数当たり純資産額12,465円。

○損益の状況（2015年3月12日～2015年12月7日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	2,551
受取利息	2,551
(B) 有価証券売買損益	223,232,624
売買益	234,876,963
売買損	△ 11,644,339
(C) 信託報酬等	△ 7,070,187
(D) 当期損益金(A+B+C)	216,164,988
(E) 追加信託差損益金	48,708,576
(売買損益相当額)	(48,708,576)
(F) 計(D+E)	264,873,564
(G) 収益分配金	△ 536,217
次期繰越損益金(F+G)	264,337,347
追加信託差損益金	48,708,576
(配当等相当額)	(172,626)
(売買損益相当額)	(48,535,950)
分配準備積立金	215,628,771

*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

*損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

*損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 分配金の計算過程（2015年3月12日～2015年12月7日）は以下の通りです。

項 目	当 期
	2015年3月12日～ 2015年12月7日
a. 配当等収益(経費控除後)	9,390,830円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	206,774,158円
c. 信託約款に定める収益調整金	48,708,576円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	0円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	264,873,564円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	2,469円
g. 分配金	536,217円
h. 分配金(1万口当たり)	5円

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金（税込み）	5円
-----------------	----

※分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合

分配金は全額普通分配金となります。

※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合

分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金（特別分配金）となります。

※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合

分配金は全額元本払戻金（特別分配金）となります。

○お知らせ

有価証券の指図範囲に新投資口予約権証券を加える所要の約款変更を行いました。

<変更適用日：2015年8月3日>

野村ジャパンドリーム マザーファンド

運用報告書

第1期（決算日2015年12月7日）

作成対象期間（2015年3月12日～2015年12月7日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	わが国の株式を主要投資対象とし、信託財産の成長を目標として、積極的な運用を行います。株式への投資にあたっては、東証一部上場小型株、東証二部上場株式、JASDAQ上場株式等の中から企業の収益力、成長力等からみて中期的に成長が期待できる銘柄を中心に投資することを基本とします。
主な投資対象	わが国の株式を主要投資対象とします。
主な投資制限	株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建て資産への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。

野村アセットマネジメント

東京都中央区日本橋 1-12-1

<http://www.nomura-am.co.jp/>

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額		参考指数		株組入比率	株式先物比率	純資産総額
	騰落	中率	ジャスダック指数	騰落中率			
(設定日) 2015年3月12日	円 10,000	% —	108.50	% —	% —	% —	百万円 800
1期(2015年12月7日)	12,561	25.6	117.90	8.7	96.0	—	1,349

*株式先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

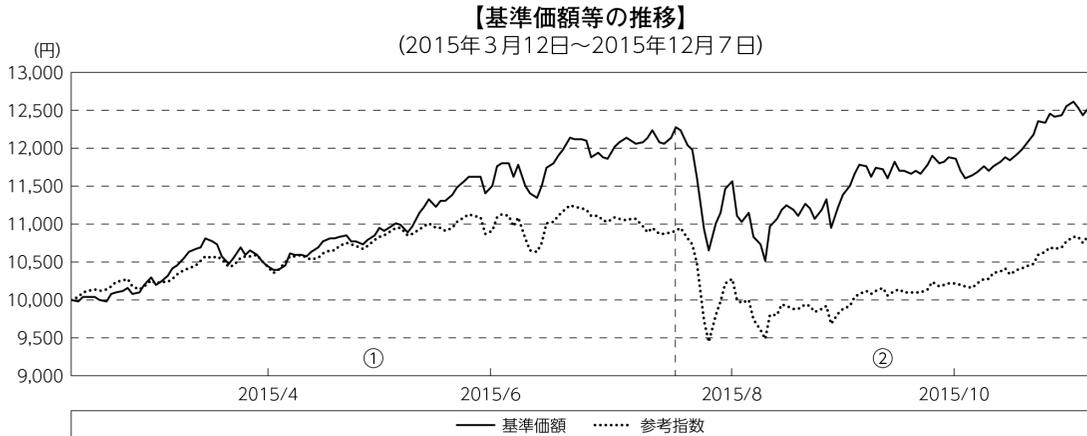
年月日	基準価額		参考指数		株組入比率	株式先物比率
	騰落	率	ジャスダック指数	騰落率		
(設定日) 2015年3月12日	円 10,000	% —	108.50	% —	% —	% —
3月末	10,300	3.0	111.26	2.5	96.5	—
4月末	10,460	4.6	113.41	4.5	96.3	—
5月末	10,789	7.9	116.32	7.2	96.1	—
6月末	11,501	15.0	118.35	9.1	96.2	—
7月末	12,016	20.2	120.28	10.9	95.6	—
8月末	11,570	15.7	111.48	2.7	96.0	—
9月末	11,237	12.4	106.52	△ 1.8	96.4	—
10月末	11,863	18.6	110.93	2.2	95.8	—
11月末	12,437	24.4	116.04	6.9	96.0	—
(期末) 2015年12月7日	12,561	25.6	117.90	8.7	96.0	—

*騰落率は設定日比です。

*株式先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

◎運用経過

○期中の基準価額等の推移



(注) 参考指数は、ジャスダック指数です。作成期首の値が基準価額と同一となるように計算しております。

○基準価額の主な変動要因

* 基準価額は25.6%の上昇

基準価額は、設定時10,000円から期末12,561円に2,561円の値上がりとなりました。

①の局面（設定時～'15年8月中旬）

(上昇) 国内において所得環境の改善による内需の回復期待が高まったこと

(上昇) 日本企業の2014年度決算が堅調であったことや、コーポレートガバナンス(企業統治)強化に対する期待が高まったこと

②の局面（8月中旬～期末）

(下落) 中国経済や中国の株価下落に対する懸念により投資家のリスク回避姿勢が強まったこと

(上昇) 米国が利上げを先送りするなど世界的に金融緩和が継続したこと

○投資環境

- (1) 世界経済は中国の経済成長への懸念がありますが、主要先進国を中心に緩やかな成長が続いています。米国は雇用回復による内需主導の景気拡大、欧州は金融緩和などを背景に緩やかな回復が継続しています。
- (2) 日本経済についても、緩やかにしながら拡大が続いています。中国を含めたアジア経済減速の影響などにより、一時的に実質GDP（国内総生産）成長率は前年比マイナスとなりましたが、今後は所得環境の改善により消費が堅調に推移することに加え、人手不足による省力化投資などにより企業の設備投資も徐々に上向くとみられます。
- (3) 今後も世界経済の緩やかな回復を背景に、日本の株式市場も堅調な推移が期待できますが、米国の利上げや新興国の景気減速などで景気に対する不透明感が強まる中では、競争力によって企業業績の格差が広がるとみられます。独自の成長要因をもち、中期的な成長確度の高い企業を選別することがより一層重要になると考えています。

○当ファンドのポートフォリオ

・株式組入比率

原則として高位を保つことを基本としており、期を通じて概ね90%以上を維持し、期末は96.0%としました。

・期中の主な動き

当期は高齢化社会の進展や自動車の電装化などによる中長期的な需要増を取り込める企業や、国内の業界再編により収益環境の改善が期待できる企業などに注目しました。

環境や安全への取り組み強化などによる自動車の電装化に伴い、コネクタの売上増が見込まれる電気機器株、FX（外国為替証拠金取引）で高いシェアを有している証券、商品先物取引株などを買い付けました。

一方、情報・通信業で株価上昇により割安感が薄れた銘柄や、成長分野として期待していた新規事業の収益化が遅れている銘柄などを売却しました。

<比率を引き上げた主な銘柄>

①イリソ電子工業（期末2.6%、純資産比、以下同じ）

環境や安全への取り組み強化などによる自動車の電装化に伴い、主力製品であるコネクタの売上拡大が見込まれるため。

②GMOクリックホールディングス（2.5%）

FXで高いシェアを有しており、取引顧客数の増加に伴い業績拡大が期待できるため。

<比率を引き下げた主な銘柄>

①ラック（0.6%）

好調な業績推移を背景に株価が上昇し、割安感が薄れたため。

②ポルトウウィン・ピットクルーホールディングス（0.0%）

成長分野として期待していたネット看視事業は、他社との競争などにより伸び悩みが懸念されるため。

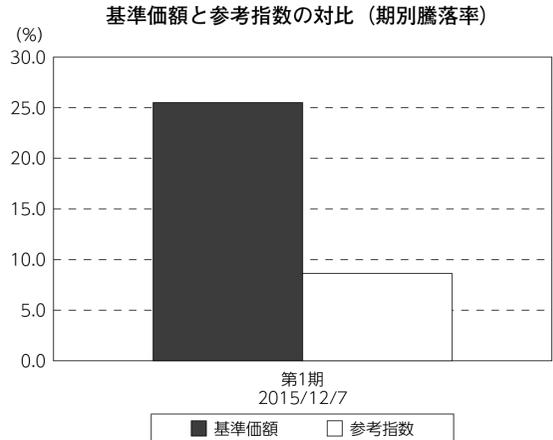
○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは、運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

* 参考指数との対比では16.9ポイントのプラス

今期の基準価額の騰落率は25.6%の上昇となり、参考指数であるジャスダック指数の8.7%を16.9ポイント上回りました。



(注) 参考指数は、ジャスダック指数です。

【主な差異要因】

プラス寄与した主な投資銘柄

- ・ ジャスダック銘柄では、豊富な運用実績を活かしてスマートフォン向け広告売上が大幅に伸びているセプテーニ・ホールディングスや、情報セキュリティ関連の受注拡大が期待できるラックなど。
- ・ ジャスダック以外の銘柄では、リストラ効果とEコマースの好調で業績が急回復したアダストリアや、外資系の大手製薬会社との提携により業績の拡大期待が高まったそせいグループなど。

マイナス寄与した主な投資銘柄

- ・ ジャスダック銘柄では、パート・アルバイトの残業代など人件費を中心にコストが想定以上に増加したフジオフードシステム、生産拠点拡充の投資負担が重く、業績が低迷しているエイチワンなど。
- ・ ジャスダック以外の銘柄では、新規事業への積極的な投資により一時的に業績が伸び悩む可能性があるサイバーエージェント、スマートフォン向けゲーム市場の競争激化が懸念されるコロプラなど。

◎今後の運用方針

当ファンドは第2期を迎えます。前記の投資環境認識のもと、

- (1) 成長期の銘柄では、複数の収益源を有しており中期的な成長確度が高い企業、ニッチ（隙間）な成長市場で主要プレイヤーになる可能性がある企業などに注目しています。
- (2) 主力事業の収益安定性や積極的な株主還元姿勢などにも着目して投資をしていく考えです。

○1万口当たりの費用明細

(2015年3月12日～2015年12月7日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 16 (16)	% 0.141 (0.141)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
合 計	16	0.141	
期中の平均基準価額は、11,352円です。			

*各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

*各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2015年3月12日～2015年12月7日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国		千株	千円	千株	千円
内	上場	891	1,399,589	210	329,564
		(19)	(-)		

*金額は受け渡し代金。

*単位未満は切り捨て。

*（ ）内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2015年3月12日～2015年12月7日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	1,729,154千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	996,312千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.73

* (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2015年3月12日～2015年12月7日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$		うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$	
株式	百万円 1,399	百万円 153	% 10.9	百万円 329	百万円 —	% —

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	1,452千円
うち利害関係人への支払額 (B)	133千円
(B) / (A)	9.2%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは野村證券株式会社です。

○組入資産の明細

(2015年12月7日現在)

国内株式

銘柄	当 期 末	
	株 数	評 価 額
	千株	千円
建設業 (2.3%)		
東洋建設	56.2	30,179
食料品 (2.0%)		
柿安本店	13.3	26,613
繊維製品 (1.4%)		
ホギメディカル	2.9	18,241
化学 (2.3%)		
太陽ホールディングス	6.5	30,095
医薬品 (1.3%)		
そーせいグループ	2	16,280
ガラス・土石製品 (1.2%)		
アジアパイルホールディングス	27.1	15,609
金属製品 (4.0%)		
バイオラックス	1.1	7,447
エイチワン	62.3	44,046
機械 (4.0%)		
サトーホールディングス	4.9	13,798
ハーモニック・ドライブ・システムズ	15.2	37,498
電気機器 (5.3%)		
イリソ電子工業	4.9	34,937
芝浦電子	16.8	29,551
フクダ電子	0.6	4,020
輸送用機器 (1.4%)		
ヨロズ	7	18,095
精密機器 (2.9%)		
ナカニシ	4	18,220
朝日インテック	3.4	19,040
その他製品 (3.3%)		
フルヤ金属	6.5	12,187
フジシールインターナショナル	7.8	30,303
情報・通信業 (12.0%)		
東北新社	8.3	7,461
コロブラ	15.4	41,010
ラック	5.7	8,236
オービックビジネスコンサルタント	3.8	27,322
デジタルガレージ	13.9	27,800
沖縄セルラー電話	0.9	2,826
GMOインターネット	13.4	24,669

銘柄	当 期 末	
	株 数	評 価 額
	千株	千円
カドカワ	8.3	16,027
卸売業 (6.2%)		
マクニカ・富士エレホールディングス	21.4	33,940
第一興商	4.4	19,800
シークス	7.1	26,767
小売業 (20.8%)		
アダストリア	2.8	19,740
フジオフードシステム	15	38,070
セリア	8.7	46,545
ナフコ	3.4	6,766
ジェイアイエス	1.5	7,177
Monotaro	2.1	7,444
スタートトゥデイ	11.4	48,849
ウエルシアホールディングス	1.3	8,489
サンワカンパニー	28.6	15,043
ホットランド	19.3	30,127
ユナイテッドアローズ	2	10,940
サックスパー ホールディングス	15.7	30,615
証券、商品先物取引業 (2.6%)		
GMOクリックホールディングス	41.6	33,238
その他金融業 (2.2%)		
イー・ギャランティ	10.8	29,030
サービス業 (24.8%)		
UTグループ	79.9	51,935
ツクイ	11.2	14,616
セブテニ・ホールディングス	24.5	61,372
サイバーエージェント	8.9	47,793
フルキャストホールディングス	23	18,032
エン・ジャパン	11.8	48,380
ライドオン・エクスプレス	12.3	19,126
東祥	4	12,960
トランス・コスモス	14.9	46,488
合 計	株数・金額 699	1,294,801
	銘柄数<比率> 52	<96.0%>

*各銘柄の業種分類は、期末の時点での分類に基づいています。
*銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。
*評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。
*評価額の単位未満は切り捨て。

○投資信託財産の構成

(2015年12月7日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 1,294,801	% 93.6
コール・ローン等、その他	88,007	6.4
投資信託財産総額	1,382,808	100.0

*金額の単位未満は切り捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2015年12月7日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,382,808,293
コール・ローン等	47,695,114
株式(評価額)	1,294,801,100
未収入金	39,121,187
未収配当金	1,190,800
未収利息	92
(B) 負債	33,435,442
未払金	3,535,442
未払解約金	29,900,000
(C) 純資産総額(A-B)	1,349,372,851
元本	1,074,246,538
次期繰越損益金	275,126,313
(D) 受益権総口数	1,074,246,538口
1万口当たり基準価額(C/D)	12,561円

(注) 期首元本額800百万円、期中追加設定元本額321百万円、期中一部解約元本額47百万円、計算口数当たり純資産額12,561円。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額・野村ジャパンドリーム(野村SMA・EW向け) 1,074百万円

○損益の状況 (2015年3月12日～2015年12月7日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	9,695,850
受取配当金	9,660,970
受取利息	27,339
その他収益金	7,541
(B) 有価証券売買損益	224,777,001
売買益	256,555,352
売買損	△ 31,778,351
(C) 当期損益金(A+B)	234,472,851
(D) 追加信託差損益金	51,620,141
(E) 解約差損益金	△ 10,966,679
(F) 計(C+D+E)	275,126,313
次期繰越損益金(F)	275,126,313

*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

*損益の状況の中で(D)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

*損益の状況の中で(E)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○お知らせ

有価証券の指図範囲に新投資口予約権証券を加える所要の約款変更を行いました。

<変更適用日：2015年8月3日>